

— 會 告 —

(I) 新年度の會費納入相成度御願ひ

御承知の通り會誌の發行は近頃は前金でいただきませんと到底發行を續けられません（紙代と印刷屋への拂ひも皆前拂ひです）。何卒毎月絶えず發行が出来ますよう事情御諒察の上直ぐ昭和 26 年度會費（昭和 26 年 1 月～昭和 26 年 12 月）

維持會員	お約束いただきし口數の金額	
正會員	500 圓	} (御都合で 2 回拂でも差支ありません)
學生會員	200 圓	

をお拂込み下さい。特にお願い申し上げます。

尙會費拂込み延滞の恐れあるお方は兎に角直ぐ上記額の會費を御納入下さい。本會に着金後何年度分に相當するか調査の上これらを明記した領收書を差上げますから振替用紙（昨年 11 月號に封入して差上げてあります）で至急お納め下さい。振替口座 東京 193 番

(II) 日本鐵鋼協會々員名簿特別價格頒布

久振りで會員名簿が出来ました。現在會員の住所、御勤務の箇所は勿論本部支部役員、評議員、表彰者の芳名は元より會員として是非御承知を願ひ度本會の定款、同實施細則、研究部會、各記念資金取扱規程等詳細掲上してありまして、これから御入會の諸君には入會と同時に是非お買求めをお進めして買つていただいている次第です。どうか現在會員でいらつしやる諸君に於かれましても是非此際一冊お買上げの光榮に浴し度お願いいたします。

1 冊特價割引 100 圓（送料別に 15 圓）

(III) “PHYSICAL AND WELDING METALLURGY OF CHROMIUM STAINLESS STEELS” の頒布について

昨年 8 月米國 = ユーローク市の Welding Research Council の “Helmut Thielsch” 氏から送られました著書 “Physical Metallurgy of Austenitic Stainless Steel” は非常な好評を以て忽ちに賣り盡されましたが、今回更にその續篇とも云ふべき標記の原文 60 頁圖表 22 頁より成る不銹鋼の研究及び製造上極めて有益なものが送附せられましたので復寫いたしました。次の實費で頒布のことゝなりお申込み順で直に發送いたします。

頒布價格 1 冊 450 圓（送料別に 40 圓）

(IV) “鋼の熱處理と作業標準” 出版 (限定版) 豫約申込受付

本會特殊鋼部會に於て一昨年來部會長石原善雄君，主査佐藤忠雄君の下に東大機械試験所，新扶桑金屬，日本製鋼所，日立製作所安來工場，大同製鋼，神戸製鋼，東京鋼材，東都製鋼等主要研究機關，製鋼工場より専門の委員を選び構造用特殊鋼，鍛鋼鑄鋼，ばね鋼，軸受鋼，各種工具鋼等の熱處理の原理と作業標準とを十數回に亘つて検討を加へてまいりました結果今般漸く完成出版の運びになりました。熱處理作業に携る技術者は勿論のこと設計者その他機械技術者或は學生諸氏にも裨益するところ大なるものがあると存じますので次記要綱御諒承の上無くならぬ内に至急お申込み下さい。

申 込 要 綱

豫約申込締切期日 昭和 26 年 3 月末日
竣成配本期日 昭和 26 年 3 月末日
豫約申込特價 1 冊 金 300 圓 (送料として別に 40 圓) お申込みと同時に御送金のこと。
體 裁 B 5 版 約 150 頁 (總クロス上製美本)
内 容 :—

緒 言

第 1 編 總 論

第 1 章 熱處理に関する術語の意義。第 2 章 熱處理加熱爐。第 3 章 熱處理操作。第 4 章 試験及び検査法。

第 2 編 各 論

第 1 章 鍛鋼の熱處理作業標準。第 2 章 機械構造用炭素鋼の熱處理作業標準。第 3 章 構造用大物特殊鋼の熱處理作業標準。第 4 章 構造用小物特殊鋼の熱處理作業標準。第 5 章 肌焼鋼の熱處理作業標準。第 6 章 窒化鋼の熱處理作業標準。第 7 章 ステンレス鋼の熱處理作業標準。第 8 章 耐熱鋼の熱處理作業標準。第 9 章 炭素工具鋼の熱處理作業標準。第 10 章 特殊工具鋼の熱處理作業標準。第 11 章 ヤスリ鋼の熱處理作業標準。第 12 章 ダイス鋼の熱處理作業標準。第 13 章 高速度鋼の熱處理作業標準。第 14 章 バネ鋼の熱處理作業標準。第 15 章 軸受鋼の熱處理作業標準。第 16 章 普通鑄鋼の熱處理作業標準。第 17 章 特殊鑄鋼の熱處理作業標準。第 18 章 焼戻性能曲線。

附 録 日本工業規格抜粹

(V) 日本鐵鋼協會第36回通常總會開催御通知

昭和 26 年 2 月 日

日本鐵鋼協會 會長 田 中 清 治

名譽會員 維持會員 殿
贊助會員 正會員

拜啓 愈々御清祥の段慶賀の至りに存じ上げます。陳者本會第 36 回通常總會を來る 4 月 1 日 (日) 午前 11 時 20 分より東京大學第一工學部第 2 號館 21 號教室で次記要領で開催いたします。何卒奮つて御出席下さい。右御案内申し上げます。

通 常 總 會 要 領

- 1. 日 時 昭和 26 年 4 月 1 日 (日) 自午前 11 時 20 分 至 正午
- 2. 會 場 東京都文京區本富士町 東京大學第一工學部第 2 號館第 21 號教室
- 3. 總會次第 (1) 會長挨拶事業報告. (2) 改選役員選舉. (3) 定款中改正 (會費値上げ) の件. (4) 監事 1 名改選報告. (5) 昭和 25 年度收支決算報告. (6) 昭和 26 年度收支豫算報告. (7) その他各資金取扱規則の經費補助に關する件等

4. 表彰式

服部賞牌受領者	八幡製鐵株式會社八幡製鐵所工作部長 工學士	淺村 峻三君
服部賞金受領者	富士製鐵株式會社釜石製鐵所 川崎製鐵株式會社葺合工場	大貫 富藏君 細川 角平君
香村賞牌受領者	日本鋼管株式會社取締役鶴見製鐵所長 工學士	田中 國雄君
香村賞金 (第 9 條適用) 受領者	八幡製鐵株式會社八幡製鐵所 工學博士 新扶桑金屬工業株式會社製鋼所 理學博士	城 博君 鈴木 和郎君
渡邊賞牌受領者	株式會社日本製鋼所室蘭製作所 工學士	館野 萬吉君
渡邊賞金受領者	大阪特殊製鋼株式會社吹田工場 工學士 日本特殊鋼株式會社 工學士	荒木 透君 澤 繁樹君
俵賞受領者 (優等學術論文)	新扶桑金屬工業會社製鋼所	齋藤 泰一君
(優等技術論文)	日本鋼管株式會社川崎製鐵所技術研究所	高嶋德三郎君

5. 今期改選理事候補者

石原 善雄君 内川 悟君 佐藤 忠雄君 田畑新太郎君
 (備考) 今期退任理事 芥川 武君 繪野澤喜之助君 佐々木吉備三郎君 松永陽之助君

6. 今期改選評議員候補者

伊藤 正夫君	石田 四郎君	上野建二郎君	梅津 七藏君	繪野澤喜之助君	大谷米太郎君
岡村 武君	嘉村 平八君	香春三樹次君	桂 辨三君	川端 駿吾君	川村吟次郎君
菊池 浩介君	絹川武良司君	葛 誠四郎君	桑田 賢二君	小林佐三郎君	小平 勇君
幸田 成康君	佐藤 知雄君	齋藤 彌平君	里村 伸二君	澤村 宏君	須永己代次君
角野 尚德君	瀧澤 工君	永島菊三郎君	永野 重雄君	西村 秀雄君	錦織 清治君
花岡 元吉君	蜂谷 茂雄君	平岡 富治君	廣田 壽一君	廣瀨 政次君	藤井 寛君
本多光太郎君	増本 量君	町永 三郎君	的場 幸雄君	柳 隆君	宮下格之助君
村田 巖君	室井嘉治馬君	望月 要君	森山 達郎君	柳 武君	山田良之助君
湯川 正夫君	和田 龜吉君				

(御参考) 今期留任の方

新谷 哲次君	網谷 俊平君	有光 次郎君	井村 荒喜君	伊丹榮一郎君	伊藤 隆吉君
池田 正二君	生悅任貞太郎君	石原寅次郎君	石原米太郎君	岩瀬 慶三君	大塚 誠之君
大原 久之君	賀田 秀一君	加藤 德衛君	金森 九郎君	河田 重君	木村 幸次郎君
久保田 豊君	栗本 順三君	黒田 泰造君	越 達三君	佐野 幸吉君	酒井 佐敏君
笹部 誠君	寒川恒一郎君	鹽澤 正一君	園田 一夫君	田中 國雄君	田中 德松君
武田 修三君	立山 重紀君	谷口 光平君	谷村 灝君	豊田喜一郎君	中山 育雄君
西山彌太郎君	萩原 巖君	原 繁造君	原田猪八郎君	平世 將一君	藤川 一秋君
藤村 哲之君	松永陽之助君	宮代 彰君	村上武次郎君	毛利 惣之君	矢野 範二君
藪内周三郎君	横山 均次君				

7. 定款中改正を要する件 (第 8, 34, 35 條参照)

會費値上げの件 贊助會員 1 時に 5,000 圓を正會員費の 10 ヶ年分に,
 正會員 年 500 圓を 600 圓に, 學生會員 200 圓を 400 圓に,
 入會金は正會員 80 圓を 100 圓に, 學生會員 30 圓を 50 圓に値上げすることとし
 昭和 26 年 1 月より實施のこと。理由: 紙代, 印刷代の昂騰及び會誌増頁の爲め。

(VI) 日本鐵鋼協會 東海支部總會並講演會御案内

日時 昭和26年3月18日(日)午前9時 場所 名古屋大學工學部(名古屋市熱田區六野町)
市電 高藏或は雁道下車

第 1 會 場

No.	題 目	所 屬	講演者氏名	時 間
1.	鐵に固溶する炭素の活動係數に及ぼすニツケルの影響に就いて	名大, 工學部	佐野 幸吉 ○吉田 泰三	9・00~9・20
2.	純鐵の高温瓦斯放出に及ぼす微量炭素の影響に就いて	"	佐野 幸吉 ○村瀬 照明	9・25~9・45
3.	電氣爐製鋼法に於ける過酸化防止に就いて	"	佐野 幸吉	9・50~10・20
4.	石灰石使用による鹽基性電爐熔解作業に就いて	日本車輛製造K.K.	川村 宏矣 加藤 孝三	10・25~10・45
5.	Mg の再結晶温度附近の熱起電力の變化に就いて	名古屋工業大學	○月本 達秀	10・50~11・10
6.	Mg 合金の時効に就いて	名大, 工學部	市川 理衛 久恒 中陽	11・15~11・35
7.	Al-Mg の耐蝕性に就いて (第2報)	浪速大學工學部	○西 成基 播本 寛光	11・40~12・00 12・00~13・00 13・00~13・30
8.	金屬に於ける二, 三の加工軟化現象に就いて	理化學材料K.K.	川村 宏矣	13・30~13・50
9.	液態滲炭, 窒化に依る硬化層に就いて	名大, 工學部	久恒 中陽 ○吉川 文岳	13・55~14・15
10.	液態滲炭窒化に關する一考察	三菱電機K.K. 名古屋製作所	大森 淳夫	14・20~14・40
11.	Fe-Cr 系規則格子の研究 (第3, 4報) 比熱測定及X線的研究	名大, 工學部	武田 修三 ○永井 直記	14・45~15・05
12.	比熱測定を主とする炭素鋼の焼戻しの検討 (第1報)	名大, 工學部	武田 修三 ○岩間 義郎	15・10~15・30
13.	高炭素鋼の球狀炭化物の密度分布	東洋ベアリング製造K.K. 研究部	關口 清一 ○室 博	15・35~15・55
14.	ガスタービン用超耐熱合金の研究 (第1報) Timken 合金の時効硬化及それに及ぼす成分元素の影響	名大, 工學部	武田 修三 ○永井 直記 花井 優	16・00~16・20
15.	軸受鋼の球狀化焼鈍法の條件	東洋ベアリング製造K.K. 研究部	關口 清一 ○室 博	16・25~16・45

以 上

第 2 會 場

No.	題 目	所 屬	講演者氏名	時 間
16.	鑄鋼の高温龜裂傾向に及ぼす諸元素特にS及Cuの影響	日本車輛製造K.K.	沖 進	9・00~9・20
17.	戦後に於ける鑄物用原料鉄の變遷並に二, 三の考察	豊田自動織機製作所	○林 伸太郎 杉原 守一	9・25~9・55
18.	厚肉鑄鋼の脆性に就いて	日本車輛製造K.K.	沖 進	10・00~10・20
19.	可鍛鑄鐵の第二段黒鉛化に關する一觀察	トヨタ自動車工業K.K.	吉見 良平	10・25~10・45
20.	鑄鋼の押湯に關する二, 三の實驗	日本車輛製造K.K.	沖 進	10・50~11・10
21.	熱間加工用工具鋼の研究 (第4報) 残留大洲田の二次 Ar ³ 並その恒温分解の様相に就いて	名大, 工學部	武田 修三 ○深瀬 幸重	11・15~11・35
22.	ロールの首繼ぎ	名古屋市工業研究所 新大同製鋼K.K. 星崎工場	○永田 重雄 五明 忠夫	11・40~12・00 12・00~13・00 13・00~13・30
23.	金屬の引張又は壓縮加工による比重の變化に就いて	名大, 工學部	關口春次郎 ○稻垣 道夫	13・30~13・50
24.	金屬を引張又は壓縮加工する場合の 降狀點應力—加工度曲線の比較に就いて	"	"	13・55~14・15
25.	心線中に Si, Mn を特に含有せしめた 電弧熔接棒の被覆劑に就いて	新大同製鋼K.K. 研究部	久保田全俊 ○岡田 泰治	14・20~14・40
26.	珪素セメンテーションの研究 (不銹鋼に及ぼす効果に就いて)	名大, 工學部	久恒 中陽 ○篠田 武雄	14・45~15・05
27.	鑄物鉄鐵専門の熔鑄爐の建設に就いて	深田製作所	深田 辨三	15・10~15・40

以 上

球狀黒鉛鑄鐵(ノヂュラー又はダクチル鑄鐵)講演會

(文部省試験研究費による東西兩研究班の合同業績發表會)

日本鑄物協會

日時 三月五日(月)午前九時より
場所 東京都工業獎勵館 國電濱松町驛下軍 海岸寄り徒歩五分
會費 二百圓 (プリント代は別)
申込 當日會場にて受付

- | | | |
|-------------------------|-------------------------|-------------------------------|
| 1. 序論. 耐蝕性放出ガス | 早大鑄物研究所長
工學博士 | 飯 高 一 郎 |
| 2. 球狀黒鉛生成に及ぼす原料銑並にガスの影響 | 九大助教授 | 松 田 公 扶 |
| 3. Mg 添加合金及添加方法による歩留り | 大阪府工業獎勵館第五部長 | 若 本 洋 之 助 |
| 4. 鑄鐵中の Mg の定量分析に就て | 早 大 教 授
工 學 博 士 | 鹿 島 次 郎
上 田 重 明
中 田 重 德 |
| 5. 本鑄鐵の組織圖と熱處理に就て | 早大助教授 | 堤 信 久 |
| 6. 本鑄鐵の高周波焼入の研究 | 大阪府工業獎勵館 | 岡 林 邦 夫 |
| 7. 耐摩耗性と機械的性質に就て | 早大助教授
早大講師 | 葉 山 房 夫
松 浦 佑 次 |
| 8. 本鑄鐵の機械的性質及耐摩耗性 | 西日本重工長崎精機製作所
技 師 | 佐 野 專 一 |
| 9. Mg 處理法の基礎的研究 | 早大助教授 | 草 川 隆 次 |
| 10. 未 定 | 工 大 教 授
工 學 博 士 | 岡 本 正 三 |
| 11. 鑄造法について | 西日本重工長崎精機製作所
鑄 鍛 課 長 | 山 本 忠 次 |
| 12. 未 定 | 東芝研究課長 | 正 村 寛 三 郎 |
| 13. 本鑄鐵工業化の重要問題 | 九 大 教 授
工 學 博 士 | 谷 村 淵 |